



新たな総合計画づくりに向けた
川崎の未来を考える市民検討会

報告書

平成26（2014）年10月31日

川崎市

目次

1. はじめに	4
(1) 本事業の目的と位置づけ	4
(2) 市民検討会の開催における実施手法の特徴	4
① 7区の地域性にこだわり、現場の声を引き出す	
② 無作為抽出・有償型で、責任感のあるバランスの良い議論を行う	
③ 創造的な議論の場をつくり、今後も市政に参加するきっかけのひとつにする	
④ 2つの手法で「広く」そしてさらに「掘り下げて」意見聴取する	
2. ワークショップの開催について	7
(1) 開催概要	7
(2) 市民検討会プログラムと進め方	9
(3) 会場レイアウト	13
(4) 参加者への事前送付資料	15
3. 参加者から得られた意見のまとめ	20
(1) 川崎区	20
午後の意見交換の流れと解決アイディア（川崎区）	24
■グループ1 自転車利用環境の向上と交通安全対策	24
■グループ2 高齢化の進行と地域コミュニティの活性化	24
■グループ3 総合的な子ども支援の推進	25
■グループ4 観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり	26
(2) 幸区	28
午後の意見交換の流れと解決アイディア（幸区）	32
■グループ1 災害対策や交通安全など安全安心なまちづくり	32
■グループ2 高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり	32
■グループ3 総合的な子ども支援の推進	33
■グループ4 駅前拠点整備と新たなコミュニティづくり	34
(3) 中原区	36
午後の意見交換の流れと解決アイディア（中原区）	40
■グループ1 地域防災力の向上と防犯対策	40
■グループ2 自転車利用環境の向上と交通安全対策	41
■グループ3 高齢化の進行と支え合いの体制づくり	42
■グループ4 総合的な子ども支援の推進	42
(4) 高津区	44
午後の意見交換の流れと解決アイディア（高津区）	48
■グループ1 地域性に配慮した災害対策の推進	48
■グループ2 高齢化の進行と地域の福祉・医療	49

■グループ3 総合的な子ども支援の推進	49
■グループ4 歴史や文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり	50
(5) 宮前区	52
午後の意見交換の流れと解決アイデア（宮前区）	56
■グループ1 高齢社会における生涯を通じた健康づくり	56
■グループ2 総合的な子ども支援の推進	56
■グループ3 駅前拠点整備と身近な地域の交通	57
■グループ4 地域活動・地域コミュニティの活性化	58
(6) 多摩区	60
午後の意見交換の流れと解決アイデア（多摩区）	64
■グループ1 高齢社会における生涯を通じた健康づくり	64
■グループ2 総合的な子ども支援の推進	65
■グループ3 豊かな自然や観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり...	65
■グループ4 駅前拠点整備など暮らしやすい生活環境づくり	66
(7) 麻生区	68
午後の意見交換の流れと解決アイデア（麻生区）	72
■グループ1 自助・共助・公助による災害対策の推進	72
■グループ2 高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり	73
■グループ3 農と環境を活かしたまちづくり	73
■グループ4 芸術・文化のまちづくり	74

4. 参加者アンケート結果の概要..... 76

(1) 川崎区	76
(2) 幸区	78
(3) 中原区	80
(4) 高津区	82
(5) 宮前区	84
(6) 多摩区	86
(7) 麻生区	88

5. 市民検討会を振り返って..... 90

(1) 7区の地域性にこだわり現場の声を引き出す	90
(2) 無作為抽出・有償型で、責任感のあるバランスの良い議論を行う	93
(3) 創造的な議論の場をつくり、 今後も市政に参加するきっかけのひとつにする	93
(4) 2つの手法で「広く」そしてさらに「掘り下げて」意見聴取する	94
(5) その他	96
(6) 今後に向けて	96

1. はじめに

(1) 本事業の目的と位置づけ

本市では平成 26（2014）年度・27（2015）年度の2か年で新たな総合計画を策定しています。策定にあたっては市民との対話を基本に、現場の声を捉えながら検討を進めていくこととしており、策定プロセスにおいて市民の意見をお聴きするための手法を積極的に導入しています。その意見聴取の第一段階として、概ね10年程度の市政全般にわたる幅広い内容を扱う「総合計画」への参加手法である点に配慮し、多様な市民意見をお聴きするとともに、市政への市民参加のきっかけのひとつとするために、無作為に抽出した参加者によるワークショップ「川崎の未来を考える市民検討会」を実施しました。

(2) 市民検討会の開催における実施手法の特徴

① 7区の地域性にこだわり、現場の声を引き出す

新たに総合計画を策定するにあたって大切にすべきことは、市政全般にわたって市民の現場の生の声を大切にすることと、南北に長い市域を持ち7つの区がそれぞれに違う個性を持っているという川崎市の特徴を活かした検討の場をつくることであると考えました。

そのため、7区それぞれで検討会を開催し、その区に住んでいるからこそ感じている「現場の生の声」を引き出し、住民にとってのまちの将来像を出し合うために、地域性を活かした議論の場をデザインしました。

② 無作為抽出・有償型で、責任感のあるバランスの良い議論を行う

無作為抽出型の導入：公募による参加の場には、日頃から活動し、いろいろな場に参加する意欲の高い人が多く集まる傾向があります。無作為抽出にすることで、市政に参加するきっかけのなかった市民の声を聴きすることができ、年齢、性別、居住地などの面から、いわば「市民社会の縮図」となるような参加者構成で、少人数であっても、市民意見をバランス良く示す、総合計画にふさわしい議論が行われることが期待できます。

有償型の導入：有償にすることによって、「仕事」としてワークショップでの発言に責任を持って取り組んでいただくことが期待できます。また、事前に資料などにも責任を持って目を通していただくことで、予備知識のない参加手法と比べて、より掘り下げた議論を行うことが可能となります。

これらの観点から、市民検討会には、無作為抽出型と有償型の併用手法を導入しました。導入にあたっては、住民基本台帳から各区 600 名を無作為抽出し、参加意向を示した市民により、各区 30 名を上限に構成しました。

③創造的な議論の場をつくり、今後も市政に参加するきっかけのひとつにする

今回の総合計画の策定プロセスには、アンケート調査や市民フォーラムの開催、出前説明会、ICT の活用、区民祭等における意見投票などの様々な意見聴取の場を設けています。その中で、この市民検討会では、今後の策定プロセスにつながるような創造的な切り口を引き出し、そこに参加した市民や職員が、その後の策定プロセスにおいても主体的に参加できるようにきっかけとなる場とするようデザインしました。

④2つの手法で「広く」そしてさらに「掘り下げて」意見聴取する

無作為抽出による会合では、市が主催する会合に初めて参加する方が大半を占める一方で、限られた時間の中で積極的に発言を引き出す必要があります。

そこで、検討会は2つのワークショップ手法を用い、参加者の意見を「広く」そしてさらに「掘り下げて」聴取するようデザインしました。

午前は広く多様な意見を集めることができ、初めて顔を合わせる参加者がリラックスした雰囲気の中、楽しく議論することのできる、「ワールドカフェ」の手法をアレンジしたワークショップを導入しました。午後は、参加者同士の議論を深く掘り下げるため、テーマを設定し、専門のファシリテーターが進行する「グループワーク」の手法を導入し、区の特性に合わせた議論を行いました。

手法	手法① ワールドカフェタイプ	手法② グループワークタイプ
特徴・目的	- 初めて顔合わせをする参加者同士がリラックスした雰囲気の中で話し合いができる。 - 席替えを通して参加者同士のアイデアが相乗効果を生み、広がりのある意見交換ができる。	- 参加者同士の発言を促す役割も担う専門のファシリテーターが進行するため、お互いに掘り下げた議論ができる。 - 有償型としたことにより、参加者が責任を持って事前に提供した情報を学習して参加するため、参加者同士で深く掘り下げた議論を行うグループ作業ができる。
ねらい	・市及び区における広く多様なキーワードを抽出する。	・テーマを設定し、区の主な課題や解決アイデアを議論し、抽出する。
内容	・わがまちのいいところや問題を出し合い、10年後になってほしいまちのイメージを出しあおう	・区の現状と主な課題をテーマに、具体的な問題を洗い出し、将来に向けた解決アイデアを出しあおう
グループ構成	・その名のとおり、カフェのような雰囲気の少人数に分かれたテーブルで4～5人のグループを想定し、途中に席替えを入れつつ7グループで構成	・より活発な議論が行えるように7～8人のグループを想定し、設定テーマに分かれた4グループで構成
成果	意見のまとめを行い、計画策定の検討素材として活用できるようにする。	

2. ワークショップの開催について

(1) 開催概要

市民検討会は、平成 26（2014）年 7 月から 8 月にかけて、無作為に抽出した各区 600 人から参加希望者を募り、このうち年代、性別等を考慮して 30 人ずつを選び、開催しました。このような無作為抽出の市民による議論の場づくりは、本市の総合計画の策定においては新しい試みであり、10 代から 80 代以上の幅広い年代から、さまざまなご意見を伺うことができました。

各区における参加状況は以下の通りです。

【7区参加者数のまとめ】

10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代		70 代		80 代～		合計			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	平均
2	2	8	9	14	16	18	18	15	17	20	10	11	8	8	4	96	84	180	25

1. 川崎区（7 月 5 日（土）10 時 30 分～ 16 時、市役所第 4 庁舎 4 階第 6・7 会議室）

10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代		70 代		80 代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1	0	0	2	3	5	0	4	2	0	3	2	1	3	1	0	11	16	14	17	31

2. 宮前区（7 月 20 日（日）10 時 30 分～ 16 時、区役所 4 階大会議室）

10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代		70 代		80 代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1	0	1	1	0	2	4	2	2	3	4	1	3	0	1	0	16	9	28	12	40

3. 幸区（7月21日（月・祝）10時30分～16時、区役所5階第1会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	2	1	1	3	3	3	3	0	5	2	1	1	0	1	15	11	20	18	38

4. 高津区（8月9日（土）10時30分～16時、区役所5階第1・2会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	0	0	4	2	2	3	1	4	2	2	1	1	1	0	11	12	23	22	45

5. 麻生区（8月10日（日）10時30分～16時、区役所4階第1・2会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	1	3	2	3	1	2	2	3	2	2	2	2	0	1	0	16	10	33	23	56

6. 中原区（8月23日（土）10時30分～16時、エポックなかはら7階大会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	1	1	3	1	2	3	1	3	3	2	0	1	1	2	2	13	13	18	17	35

7. 多摩区（8月31日（日）10時30分～16時、区役所11階 会議室）

10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代～		合計		応募総数		
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
0	0	1	0	2	1	4	3	1	5	2	1	2	2	2	1	14	13	20	17	37

(2) 市民検討会プログラムと進め方

各区で開催した市民検討会のプログラムと進め方は以下の通りです。

※川崎区のプログラム例です。

時間	所要時間	実施内容
10:00	30 分	受付開始
10:30	20 分	開会のあいさつ・目的と全体の進め方の説明 ワールドカフェの進め方の説明
10:50	70 分	7 グループ（4～5 人）に分かれて 3 つのテーマについて席替をしながら意見交換を行います。 テーマ①：私のまちの好きなところ、自慢したいところを出し合おう テーマ②：私のまちの気になるところ、なおしたいところを出し合おう テーマ③：将来（10 年後）私たちのまちをどう良くしていきたいか出し合おう
12:00	25 分	グループ成果の発表・まとめ
12:25	45 分	昼食・休憩
13:10	20 分	川崎区の特徴・課題とこれまでの取組状況
13:30	5 分	グループワークの進め方の説明・進行役の紹介
13:35	95 分	4 グループ（7～8 人）に分かれて、各グループが 1 つのテーマについて、意見交換を行います。 グループ①：「自転車利用環境の向上と交通安全対策」 グループ②：「高齢化の進行と地域コミュニティの活性化」 グループ③：「総合的な子ども支援の推進」 グループ④：「観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり」
15:10	15 分	グループ成果の発表
15:25	20 分	各グループで良いと思った発表についてシール投票・まとめ
15:45	15 分	閉会のあいさつ・アンケート記入

〔 7 区のグループワークのテーマ一覧 〕

後半のグループワークの 4 つのテーマは各区の地域特性を反映した内容を基本としながらも、「超高齢社会への対応」については新たな総合計画の策定においても重要なポイントと考えられるため、7 区共通でテーマを設定することとしました。

川崎区	グループ①：「自転車利用環境の向上と交通安全対策」 グループ②：「高齢化の進行と地域コミュニティの活性化」 グループ③：「総合的な子ども支援の推進」 グループ④：「観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり」
幸区	グループ①：「災害対策や交通安全など安全安心なまちづくり」 グループ②：「高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり」 グループ③：「総合的な子ども支援の推進」 グループ④：「駅前拠点整備と新たなコミュニティづくり」
中原区	グループ①：「地域防災力の向上と防犯対策」 グループ②：「自転車利用環境の向上と交通安全対策」 グループ③：「高齢化の進行と支え合いの体制づくり」 グループ④：「総合的な子ども支援の推進」
高津区	グループ①：「地域性に配慮した災害対策の推進」 グループ②：「高齢化の進行と地域の福祉・医療」 グループ③：「総合的な子ども支援の推進」 グループ④：「歴史や文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり」
宮前区	グループ①：「高齢社会における生涯を通じた健康づくり」 グループ②：「総合的な子ども支援の推進」 グループ③：「駅前拠点整備と身近な地域の交通」 グループ④：「地域活動・地域コミュニティの活性化」
多摩区	グループ①：「高齢社会における生涯を通じた健康づくり」 グループ②：「総合的な子ども支援の推進」 グループ③：「豊かな自然や観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり」 グループ④：「駅前拠点整備など暮らしやすい生活環境づくり」
麻生区	グループ①：「自助・共助・公助による災害対策の推進」 グループ②：「高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり」 グループ③：「農と環境を活かしたまちづくり」 グループ④：「芸術・文化のまちづくり」



午前

市民検討会

会場レイアウト

午前の進め方 (10:50~12:25)

4~5人で席替えしながら3つのテーマについて意見交換します。

1) 7つのテーブルに分かれて座ります

会場図を参考に着席ください。

2) ヒトコト自己紹介

お名前と、住んでいる町名だけ紹介します。

3) テーマ①: 私のまちの好きなところ、自慢したいところを出し合おう

思いついたことを何でも出し合ひましょう。

4) テーマ②: 私のまちの気になるところ、なおしたいところを出し合おう

5) 出し合った意見を書き出そう

テーマ①は青の付箋に、テーマ②にはピンク色の付箋に一人3枚ずつ書いて貼り出しましょう。

6) 席替え

名札に示した座席情報を基に移動します。

7) 前のグループの振り返りと自己紹介

前のテーブルで話したことを振り返り共有します。

8) テーマ③: 将来(10年後)私たちのまちをどう良くなっていかたいか出し合おう

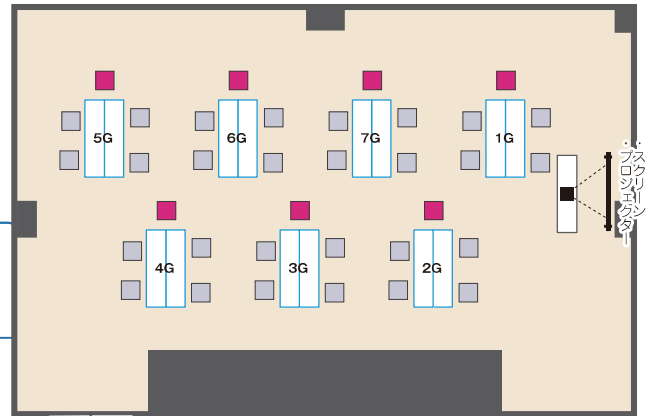
好きなところをのびし、気になるところをなおしたまちのイメージを出し合ひましょう。

9) 出し合った意見を書き出そう

黄色の付箋に一人3枚ずつ書いて貼り出します。

10) グループのベスト意見を選び発表しよう

他のグループの聞かせたい意見を一人1枚ずつシール投票で選び、発表者を決めて発表します。



テーマ①②のまとめシート

グループ まちの現状をみんなで共有しよう！

テーマ1 私のまちの好きなところ、自慢したいところを出し合おう！

テーマ2 私のまちの気になるところ、なおしたいところを出し合おう！

グループ まちの将来をみんなで考えよう

テーマ3 将来(10年後)私たちのまちをどう良くなっていかたいか出し合おう！

防犯・防災・自転車・交通安全 福祉・医療(高齢化)

子ども・教育 みどり・環境

産業・都市拠点・地域交通 観光・文化・地域資源・スポーツ

市民自治・協働・行政サービス その他

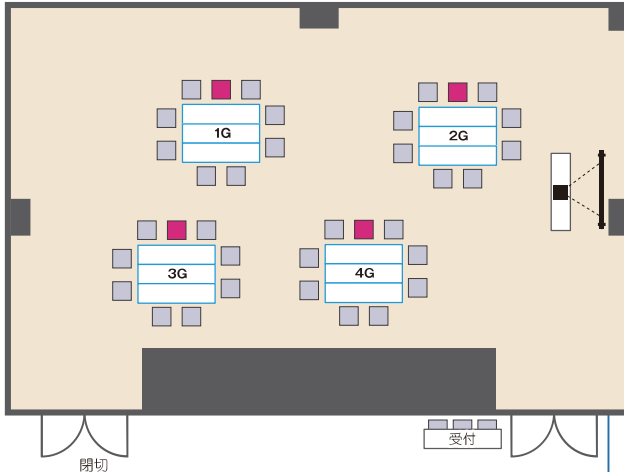
ベスト4にシールを貼る

テーマ③のまとめシート

の進め方

午後

会場レイアウト



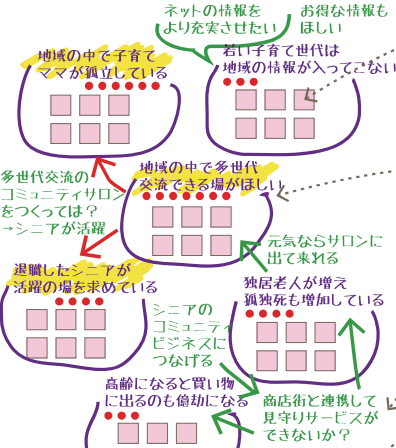
付箋の書き方のポイント

- ・ 1枚に1つのことを書く
- ・ 配布しているサインペンを使って書く
- ・ できるだけ大きな文字で書く
- ・ 単語ではなく、何をどうしたいかがわかるように書く

後半議論の模造紙のイメージ

テーマ②

増える子育て世代と進行する高齢化



テーマ②
企業と行政と子育て NPO 等の協働で、子育て世代に地域情報を届けるインターネットのサービスを充実させる

テーマ②
退職後のシニアが、地域課題を解決するコミュニティビジネスを支援するしくみを中間支援組織や大学、行政の連携で充実

後半議論のまとめシート

テーマ②
地域の子育てをする親を地元のシニアが気軽に見守ることのできる多世代コミュニティサロンを行政や社協、子育て NPO が連携してつくる

テーマ②
地元商店街と福祉系の団体が連携し、地域のシニアの力を活かした新たな高齢者の見守りサービスが必要

話し合いのお約束

- 1 全体の進行がスムーズにいくように協力しましょう
- 2 たくさんのことを言いたい時でも、なるべく多くの人が議論に参加できるように配慮しましょう
- 3 他の人の意見を否定したりせずに、いろいろな考えの人がいることを理解しましょう

午後の進め方（13:10～15:45）

7～8 人のグループでそれぞれ 1 つのテーマについて意見交換します

1) 4 つのテーブルに分かれて座ります

名札に示した座席と会場図を参考にご着席ください。

2) 区の特徴や課題を知ろう

川崎市から事前配布資料を基に情報提供します。

3) 30 秒自己紹介

お名前、住んでいる町名、テーマについて紹介します。

4) テーマの確認

テーマに関する補足や、前半の議論の中で出たテーマに関する意見を振り返ります。

5) テーマに関する課題を整理しよう

テーマに関して問題だと思うことを 1 人 3～4 枚付箋に書き出し、グループの中で同じような意見があれば集約するなど、課題の整理をします。

6) 重要な課題から解決アイデアを出しあおう

整理された課題はシール投票で重要度を確認し、重要度の高いものから、将来に向けた解決イメージを出し合います。

7) アイデアをまとめて発表しよう

解決アイデアの中でシートにとりまとめ、発表者を決めて全体でアイデアを共有します。

8) 会場全体で出てきたアイデアをシール投票

他のグループのアイデアを含めて、大切だと思うアイデアにシール投票をします。

9) まとめ

本日の議論の成果を確認します

(3) 会場レイアウト

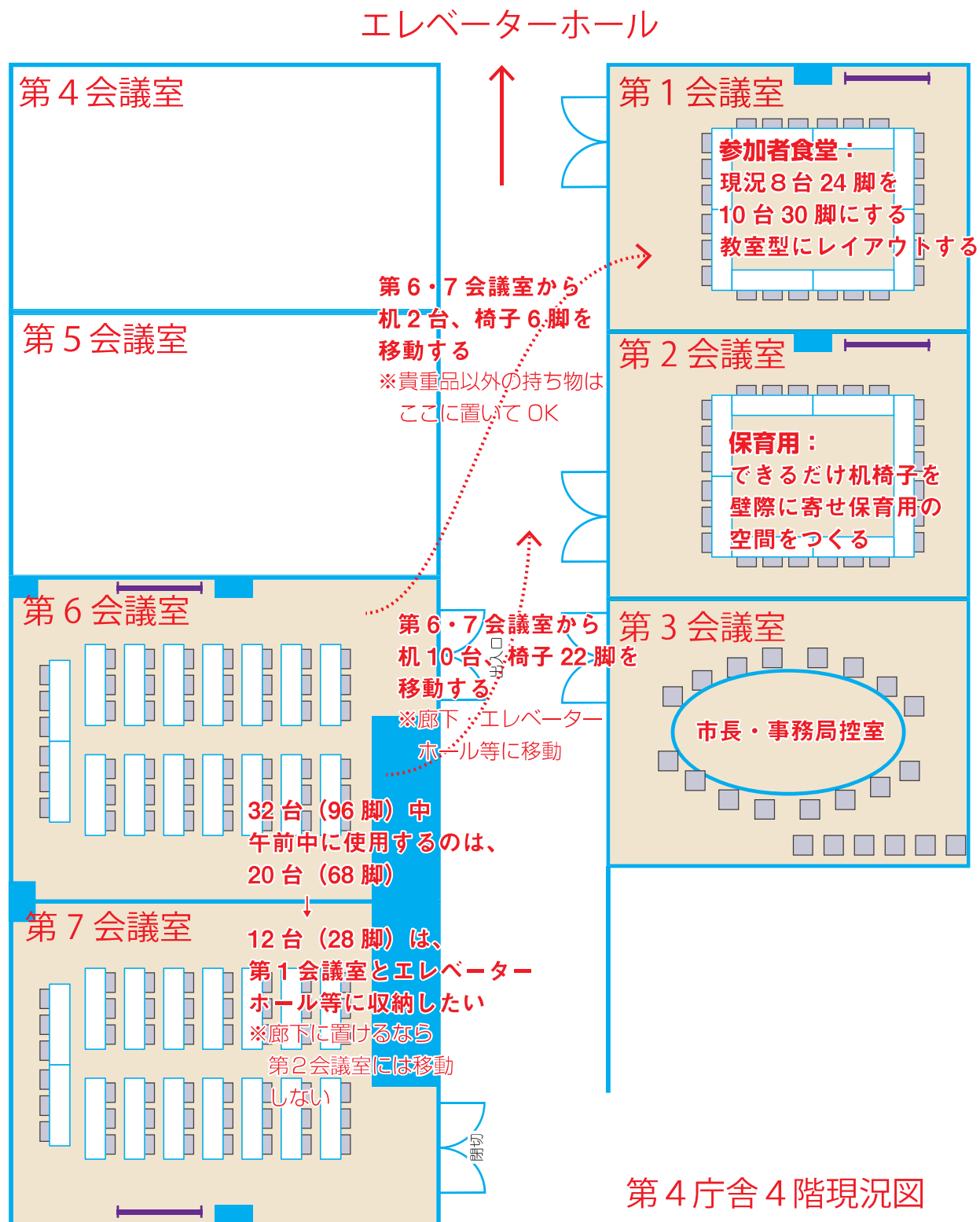
会場レイアウトは以下の通りです。(※川崎区の例)

川崎区 第4庁舎

メイン会場 レイアウト

- ☐メイン会場：第6会議室（定員 48）と第7会議室（定員 48）をぶち抜きで使用
- ☐第1会議室を参加者昼食会場
- ☐第2会議室を保育スペース
- ☐第3会議室を市長控室兼スタッフ控室





※会場レイアウトは各区異なります。

(4) 参加者への事前送付資料

事前送付資料は以下の通りです。

(※川崎区の例)

川崎市の新たな総合計画づくりに向けた

川崎市の未来を考える市民検討会

平成 26 (2014) 年 7 月 5 日 (土) 川崎区

●検討会の目的

川崎市では、本市を取り巻く環境の変化にしっかりと対応し、誰もが幸せに暮らせる「最幸(さいこう)のまち かわさき」を実現していくために、市民の皆さんの声をお聴きしながら、中長期的な視点から新たな総合計画をつくります。

この市民検討会は、新たな総合計画をつくるにあたって、市民の皆さんの目線で、川崎市の将来像やお住まいの地域の身近な課題などを意見交換し、「10年後にこんなまちにしたい」を話し合っていくことを目的としています。

●検討会の進め方(予定)

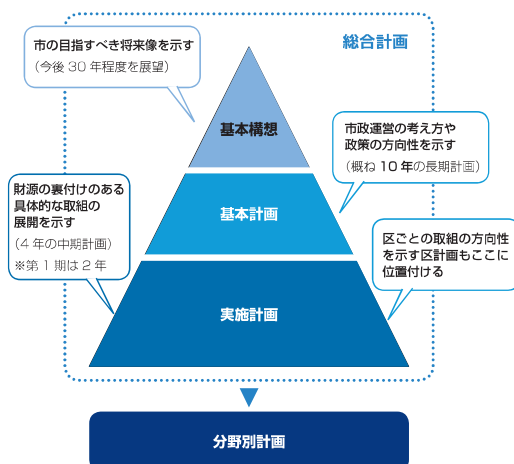
時間	所要時間	実施内容
10:00	30分	受付開始
10:30	20分	開会のあいさつ・目的と進め方の説明
10:50	70分	7グループ(4～5人)に分かれて3つのテーマについて席替をしながら意見交換を行います。 テーマ①:私のまちの好きなところ、自慢したいところを出し合おう テーマ②:私のまちの気になるところ、なおしたいところを出し合おう テーマ③:将来(10年後)私たちのまちをどう良くしていきたいか話し合おう
12:00	25分	グループ成果の発表・まとめ
12:25	45分	昼食・休憩
13:10	20分	川崎区の特徴・課題とこれまでの取組状況
13:30	5分	グループワークの進め方の説明・進行役の紹介
13:35	95分	4グループ(7～8人)に分かれて、各グループが1つのテーマについて、意見交換を行います。 グループ①:「自転車利用環境の向上と交通安全対策」 グループ②:「高齢化の進行と地域コミュニティの活性化」 グループ③:「総合的な子ども支援の推進」 グループ④:「観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり」
15:10	15分	グループ成果の発表
15:25	20分	各グループで良いと思った発表についてシール投票・まとめ
15:45	15分	閉会のあいさつ・アンケート記入

●総合計画とは?

総合計画は市政運営の基本的な理念や方針などを体系的にまとめたもので、いわば川崎市の将来に向けた道しるべと言えるものです。

このたび新たに作る総合計画は、市の目指すべき将来像を示す「基本構想」、市政運営の考え方や政策の方向性を示す「基本計画」、財源の裏付けを持った具体的な取組の展開を示す「実施計画」の3階層の計画として、検討を進めています。また、実施計画には区ごとの取組の方向性を示す区計画も位置付けていきます。

また、子育て支援や高齢者福祉、都市計画など、一定の分野を担う個別の計画を分野別計画と位置付け、これらの計画と内容の整合性を図りながら総合計画の策定を進めていきます。



●総合計画策定の進め方

新たな総合計画をつくるためには、市民の皆さんとしっかり対話し、現場の生の声をとらえながら7区それぞれの特性を活かしていくことが大変重要です。

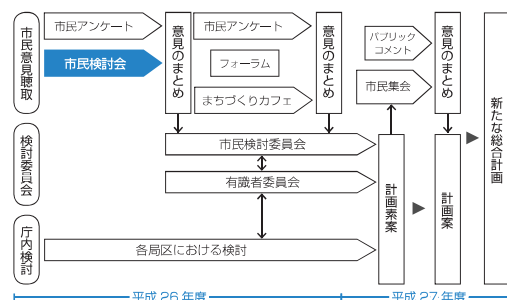
そのため、このたびの市民検討会のほか、様々なアンケート調査や区民祭などでの意見聴取、フォーラムの開催など、多くの市民の皆さんの声を伺いする仕組みをたくさん用意しています。

計画づくりの段階から市民の皆さんに積極的にご参加いただき、市民目線の課題意識や実現可能なアイデアを活かした「市民の皆さんとともに作る新たな総合計画」とすることで、市民の皆さんにより身近なものとしていきたいと考えています。

●総合計画策定の流れ

「新たな総合計画」は平成26(2014)年度・27(2015)年度の2年間でかけて策定します。今年度は市民の皆さんの声を幅広く集めるための様々な取組を実施するほか、秋頃から来年度にかけて公募市民や有識者による検討委員会を開催します。

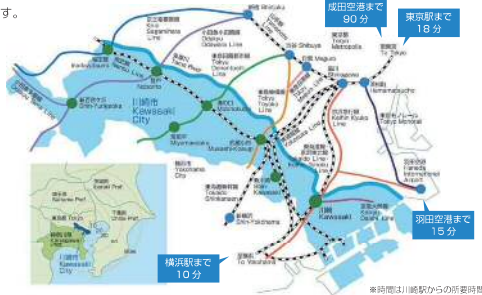
来年度も引き続き具体的な施策等の検討を進め、基本構想や基本計画の素案を市民集会やパブリックコメント等でお示しした後、平成27年度に「新たな総合計画」を策定する予定です。



●川崎市の概要

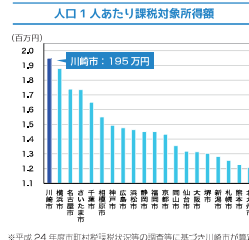
本市は今年市制 90 周年という大きな節目を迎えます。この 90 年の間に人口は約 5 万人から約 145 万人となり日本有数の大都市へと変貌しました。首都圏の中核として、高い利便性と産業や文化の資源を活かし成長を続けています。

	川崎市	日本
人口	1,453,427 人	1 億 2,665 万 8,663 人 (平成 25 年 3 月 31 日現在)
世帯数	683,228 世帯	5,417 万 1,475 世帯 (平成 25 年 5 月 31 日現在)
面積	144.35 ㎢	377,961 ㎢
市庁内(市内)総生産(実質)	5 兆 3,907 億円 (平成 23 年度)	513 兆 7,421 億円 (平成 23 年度末)



●経済成長

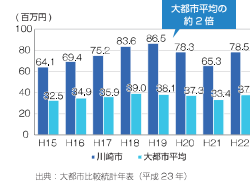
川崎が活力あふれる都市であることは、人口 1 人あたりの課税対象所得額が政令指定都市中トップであることにも表れています。こうした市民の活力のもと、川崎は平成 23 (2011) 年度の市内総生産(実質)は 5 兆 3 千 9 百億円、成長率は実質 0.4% 増となりました。市内総生産の推移も、平成 17 (2005) 年度以降は神奈川県および全国の水準を上回っています。



4

産業別の市内総生産の構成比では、最も高い産業は製造業の 22.3% で従事者 1 人あたり製造品出荷額は大都市平均の約 2 倍となっています。その背景として、もともと京浜工業地帯に属し、鉄鋼や石油化学などの重厚長大産業が多数立地していることに加え、近年は研究開発都市として発展してきていることがあげられます。

従業者 1 人あたり製造品出荷額等

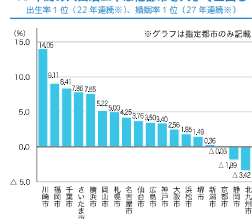


出典：大都市比較統計年表（平成 23 年）

●人口増加

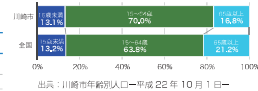
人口増加率については政令指定都市で第 1 位、自然増(出生率)、社会増ともに全国 1 位、婚姻率も 1 位となっています。人口構成は、生産年齢人口の割合が 70% と高く、大都市の中では 1 位です。全国では高齢者の割合が 21.2% で既に超高齢社会(下記参照)となっている中で、川崎はまだ 16.8% で高齢化社会の状況です。しかし平成 37(2025)年には川崎市でも超高齢社会になることが予想されます。現在の人口推計では平成 42(2030)年にピーク(約 151 万人)を迎え、その後は減少に転じる見込みです。

10 年間の人口増加率は他都市を大きく上回る

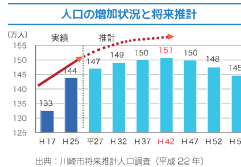


出典：大都市比較統計年表（平成 23 年度）

年齢構成からみる人口



出典：川崎市年齢別人口一平推定 22 年 10 月 1 日



出典：川崎市将来推計人口調査（平成 22 年）

5

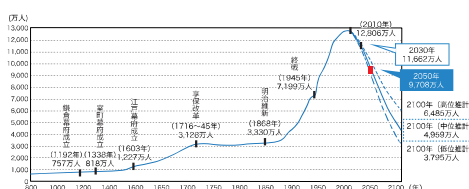
●社会状況の変化に対応したまちづくりに向けて

将来にわたって必要な市民サービスを安定的に提供していくためには、社会状況の変化など川崎市を取り巻く環境を的確に把握し、計画的に対応していく必要があります。今回の検討会においても、次のようなポイントに参加者の皆さんと共有しながら、検討を進めていきます。

●少子高齢化・人口減少社会

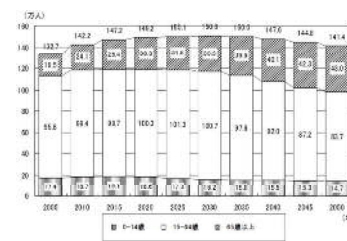
将来人口推計を踏まえて、引き続き見込まれる人口増への対応を図るとともに、少子高齢化の急速な進展や、人口減少社会の到来を見据え、長期的なまちづくりの方向性の検討が必要です。子どもたちの笑顔があふれるまちづくりや、医療と介護の連携など、誰もが安心して地域で暮らし続けられる仕組みづくり、高齢者が元気に生きがいを持って暮らせる環境整備などは、計画づくりの重要なポイントです。

我が国の人口は長期的には減少する局面に



出典：2010 年国勢調査(国勢調査)、国「平成 22 年国勢調査人口推計基本集計」、国土庁「日本列島における人口の推移と将来推計(1974 年)」、2015 年国勢調査(国勢調査)、人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012 年 1 月推計)」より国土交通省作成

川崎市の人口はしばらく増加後、平成 42 (2030) 年度から減少へ



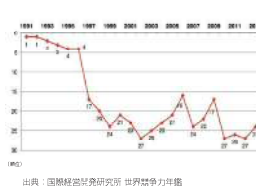
出典：川崎市将来人口推計（平成 22 年 総合企画部）

●グローバル化への対応

日本の国際競争力は低迷が続いていますが、本市は首都圏の好位置にある特性を活かしながら、人口減少や少子高齢化が進む中でも、医療や福祉、環境など成長が期待される産業分野における取組を推進することで、国際貢献と産業創出につながると考えています。

また、平成 32 (2020) 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、国際都市としての取組や、都市イメージの向上、ユニバーサルデザインのまちづくりをさらに進めていく必要があります。

我が国の国際競争力は 1990 年代後半から低迷



出典：国際競争力研究所 世界競争力年鑑



LIXIL (川崎生命科学・環境研究センター)
羽田空港に隣接した根町地区「キングスライフフロント」の中核施設。ライフサイエンス・環境分野の先端研究の拠点化が進む

6

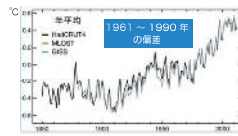
7

●環境問題

地球温暖化の進行など、環境問題は我が国全体で取り組むべき、大きなテーマのひとつです。また、温暖化との関係は現時点では明らかではないものの、短時間強雨の発生回数も増加傾向にあります。

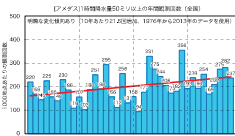
また、本市は公害を克服する過程で高い環境技術を蓄積してきており、それらの強みを活かしながら自然と調和したまちづくり、廃棄物の減量化や再利用など、資源循環型社会への転換に取り組むことが求められています。

世界平均地上気温は温暖化を示している



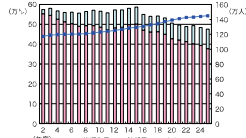
出典：IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次評価報告書（平成25年9月27日公表）

1時間降水量50mm以上の観測回数は増加傾向



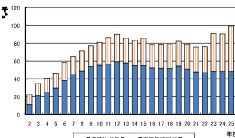
出典：気象庁ホームページ

人口が増加する中、ごみ排出量は減少



出典：統計局調べ

ごみ資源化量は近年増加



出典：統計局調べ



川崎の空（1960年代）。臨海部の工場から排出される煙が街を覆っていました。



川崎の空（2014年）。様々な対策によりきれいな空を取り戻してきました。大気の澄んだ冬場には遠くに富士山を見ることが出来ます。

8

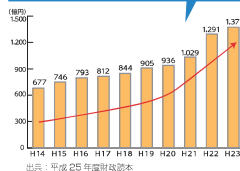
●持続可能な地域経営

本市は人口が増加し、歳出総額が増加しているものの、厳しい社会状況の中、市税収入はそれほど増えていません。現在、歳出予算で大きな割合を占めている、生活保護費や児童福祉費などの扶助費は、今後も増加していくと考えられます。また、待機児童の解消や中学校給食の導入をはじめ、多様な市民ニーズに対応していくためにも、強固で持続可能な行政基盤を確立していくことが不可欠です。

さらに、公共建築物の老朽化も進行しており今後多くの建て替えが必要となることで多大な財政負担が生じる懸念があり、計画的な対応が求められます。

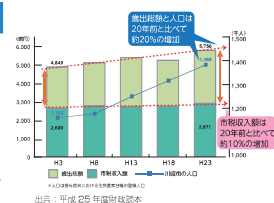
扶助費の推移

扶助費とは：生活に困っている人や、子育てをしている人、障害者や高齢者などの生活を支えるための経費



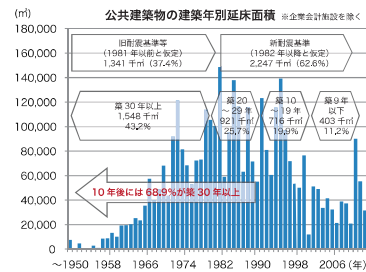
出典：平成25年度財政基本

歳出総額と市税収入額の推移



出典：平成25年度財政基本

公共建築物は10年後には7割が築30年以上



9



歴史文化と花のまち わかさき

川崎区

■世帯数 108,130 世帯
■人口 219,206 人
■面積 40.25km²
■人口密度 5,446 人/km²（H26.4月現在）

◇川崎区は、東海道五十三次の宿場町である旧川崎町、大師平岡寺の門前町である旧大師町、企業で働く人々の住宅地として発展してきた旧田島町の3地区と臨海部の埋立地で構成されています。

◇明治時代から第二次世界大戦前にかけて東京からの工場移転等により市街化が進み、戦後、臨海部では鉄鋼や石油化学コンビナートなどの工場が集中する重化学工業地帯が形づくられました。

◇これに伴い、公害などさまざまな都市問題が生じましたが、環境改善に向けた取組を進め、現在では、過去の環境問題の経験で培われた環境技術が集積するとともに、世界的なハイテク企業や研究開発機関が集結した先端産業都市の中核として成長を続けています。

◇特に、殿町3丁目地区は平成22（2010）年10月に再拡張・国際化された羽田空港との近接性を活かし、国際戦略拠点「キングスカイフロント」において、ライフサイエンス・環境分野などの先端技術の研究開発等が進められています。

◇また、市の表玄関である川崎駅周辺地区は、官公庁のほか大型商業施設、映画館などが集積し、文化・芸術の魅力を併せ持った中心都市として充実した都市機能を有しています。

◇こうしたことから、川崎区は区内事業所数・従業者数が市内で最も多く、唯一昼間人口が夜間人口を上回っています。また、外国人市民が市内で最も多く、多文化共生のまちとしての特性も有しています。



10

川崎区の花



ひまわり

ピオラ

川崎区の木



銀杏

長十郎梨



11

●川崎区の現状と主な課題

●自転車利用環境の向上と交通安全対策

- ◇区内は、平坦な地形が多いことから多くの区民の方が自転車を利用しています。また、川崎駅は 1 日平均乗車人員が市内で最も多い主要駅で（平成 24 年）、多くの自転車が川崎駅東口周辺に集中しています。
- ◇これまで駐輪場の整備や放置自転車の撤去活動などを実施してきており、放置自転車台数は減少傾向にありますが、依然として多くの自転車が放置されている状況です。
- ◇また、川崎区は交通事故発生件数が市内で最も多く（平成 25 年）、さらに、全交通事故に占める自転車関係事故の割合は県下で 1 番高い（平成 25 年）ことから、自転車交通事故多発地域に指定されています。
- ◇道路交通法における自転車の通行ルールの周知や利用マナーの向上とともに、自転車事故を減少させるための安全対策が必要と考えられます。

自転車の利用が多い駅（市内）：平日 9 時台

市営利川台数→近隣利川台数+駅台数

駅名	平成 24 年度 実利用台数	平成 23 年度 実利用台数
1 JR 川崎駅（東口・西口）	8,808	9,327
2 武蔵小杉駅（JR・東急）	5,630	6,314
3 武蔵溝ノ口駅（JR・東急）	5,453	6,349
4 登戸駅（JR・小田急）	3,569	3,368
5 元住吉駅（東急）	3,239	3,445

出典：平成 24 年度市内鉄道駅周辺における放置自転車実態調査

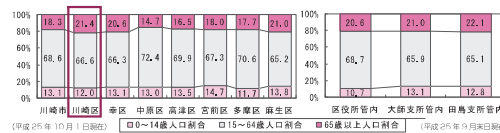


市役所通りの自転車通行環境整備

●高齢化の進行と地域コミュニティの活性化

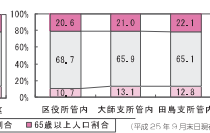
- ◇川崎区は、古くから住宅地が形成されてきた地域を中心に高齢化が進行しており、65 歳以上の高齢者人口の割合が市内で最も高くなっています。
- ◇川崎区のひとり暮らし高齢者は 10,000 人を超え（平成 22 年国勢調査）、高齢者の 24.5% がひとり暮らしで、今後も単身または高齢者のみの世帯が増えると考えられます。
- ◇一方、町内会・自治会への加入率も年々低下し続け、地域住民同士の交流は希薄化してきており、高齢者や子育て世代の孤立化が問題となっています。

年齢 3 区分別人口構成



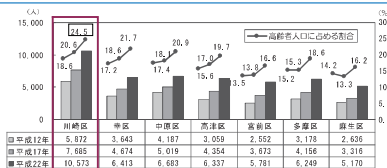
出典：第 4 期川崎区地域福祉計画

地区別年齢 3 区分別人口構成



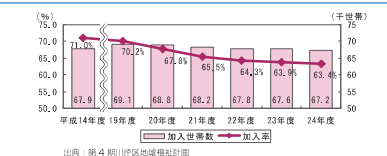
出典：第 4 期川崎区地域福祉計画

区別ひとり暮らし高齢者数と高齢者人口に占める割合の推移



出典：第 4 期川崎区地域福祉計画

町内会・自治会加入状況の推移

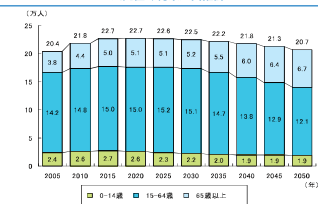


出典：第 4 期川崎区地域福祉計画

●総合的な子ども支援の推進

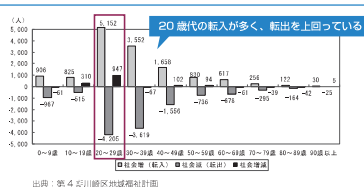
- ◇区内では、工場跡地の土地利用転換に伴い大規模な共同住宅が次々と建設され、それにより、子育て中の若い世代が増加傾向にあります。
- ◇核家族化等の進行による子育て環境の変化は、育児不安を抱く親の増加につながるとともに、家庭の孤立化による児童虐待、子どもの引きこもり・不登校などの問題につながることから、総合的な子育て支援が求められています。

川崎区の将来人口推計



出典：川崎市将来人口推計（平成 22 年 総合企画部）

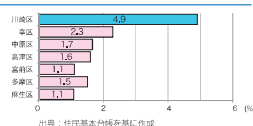
川崎区の年齢階級別移動人口（平成 24 年）



出典：第 4 期川崎区地域福祉計画

- ◇また、海外から移転してくる外国人市民は、日本語に不慣れな親子も多く、災害時に必要な情報が伝わらず、孤立化するなどの問題があります。

住民基本台帳による外国人住民人口割合（平成 25 年 12 月 31 日現在）



出典：住民基本台帳を基に作成

●観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり

- ◇区内には、年間 1 千万人以上の参拝者で賑わう川崎大師をはじめ、平成 25（2013）年 10 月に開館した東海道かわさき宿交流館など、多くの歴史・文化的資源が集積しています。また、川崎最大級のイベントかわさき市民祭りやかわさきハロウィン、かわさきアジアフェスタなど多くの魅力あるイベントが開催されています。
- ◇一方、臨海部には、海と空を満喫できる広大な公園のほか、キングスカイフロントをはじめ、かわさきエコ暮らし未来館、メガソーラーなど多くの先端産業や環境技術に関する資源が集積しています。また、羽田空港の対岸に位置することは、地域の大きな強みと言えます。
- ◇こうした豊かな地域資源を十分に活用することで、まちの賑わいや地域への愛着を育む取組を進めています。



家族で楽しめる人工海浜（かわさきの浜）



歴史散歩の新たな拠点「東海道かわさき宿交流館」

MEMO

●当日の持ち物／注意事項

- *当日の受付開始は午前 10:00、開会は午前 10:30 です。時間に余裕を持って会場までお越しください。急遽ご欠席される場合は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。
- *検討会には、**本人確認書類（運転免許証やパスポートなど）**をご持参のうえ、**必ずご本人さまが出席**するようにお願いします。
- *謝礼金のお支払いの際に、領収書を作成しますので、ご自身の**印鑑**をお持ちください。
- *お弁当やお飲み物は会場に用意します。

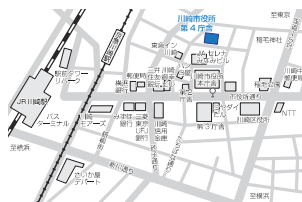
**●検討会の話し合いのコツ**

- ①全体の進行がスムーズにいくように協力しましょう
- ②たくさんのご意見を言いたい時でも、なるべく多くの人が議論に参加できるように配慮しましょう
- ③他の人の意見を否定したりせずに、いろいろな考えの人がいることを理解しましょう

●会場地図

会場：川崎市役所第4庁舎4階 第6会議室

(川崎市川崎区宮本町 3-3)



車でのご来場は避け、公共交通機関をご利用いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

JR川崎駅から約700m
京急川崎駅中央口から約400m
川崎市営バス
「市役所前」から約300m

●お問い合わせ

川崎市 総合企画局 都市経営部 企画調整課 電話 044-200-0372